

ようりゅうかんのんぞう 銅造楊柳観音像

国認定重要美術品

婦中町富崎5182

本覚寺所有

浄土真宗の古刹本覚寺に伝わる奈良時代の様式をもつ金銅仏で富山県にこの様式を伝える金銅仏三体の1つです。

本覚寺は、開基の明雲上人が飛騨で寺を興し、その後7世無雲が越中に来て、袋から現在の地に移りました。この観音像は飛騨から移されたものといわれています。また本覚寺は富崎城主神保氏が信仰した寺とも伝えられています。

観音像は永禄年間の富崎合戦の際、兵火に焼失することを恐れ、石櫃に納めて土中に埋められましたが、宝永6年(1709年)寺地拡張の折りに境内から発掘されました。

黒色で面長な顔、衣の線が鋭く、薬瓶を抱えた威厳のある姿をしています。高さ38.5cmですが、厚手のつくりで非常に重く、当時の鋳造術を知ることができます。



本覚寺



富崎下車(地铁バス)徒歩10分



銅造楊柳観音像



側面